

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「や」優しい心で、「さ」さわやかな笑顔、「し」信頼関係を大切に、「い」一緒に楽しくと、独自の理念で認知症高齢者とのかかわりを大切にしている。また、地域密着サービスとして『やさしい』には、地域の方々との優しい交流の意味合いもあり、運営理念を実現している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念はリビングに掲示している。また、ミーティング、スタッフ会議の中で理解しやすく伝えられており、全員で共有した考えを持てるように、一つ一つの意味を確かめ合って業務にあたっている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>ホーム便りを定期的に発行し、その中で理念など、分かりやすく記載しており、ご家族や、地域の方々に理解していただけるよう取り組んでいる。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近隣の方には親しくしていただいております、普段から声をかけていただいたりしている。また、季節の野菜やお米などをいただき、親しい交流ができています。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>行事には、地域の方々をご招待したり、ボランティアとして来ていただいている。また、地元の小学校の行事に招いていただいている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ご家族に理解を得ながら、地域の方のホーム見学を受け入れている。認知症についての相談があれば力をお貸ししている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価および外部評価を、ケア内容の充実と向上として受け止め評価結果を活かして、さらなる質の向上に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に一回開催しており、話し合いの中で得た情報、意見を活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム便りなどを町支所、地域包括支援センター、病院におかせていただいております。持参時に質問などお話できる機会をつくっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会で権利擁護や成年後見制度について学んでいる。また、利用している入居者様もいる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『虐待防止対応マニュアル』を基に職員で話し合いの場を持っている。また、定期的な勉強会で講師による指導を受け、虐待について深く学び、職員全員が意識してケアにあたっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの関係を崩さないよう、職員の異動は最小限に抑えるように努力している。</p>	
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間計画の中に内部での定期的な研修会を計画しており、様々なテーマで知識の習得を行っている。また、外部の研修はその都度、職員に情報として連絡し参加する機会をつくっている。参加者は研修報告書を提出し質の向上に活かしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同グループの事業所が他に3ユニットあり、常に交流する機会を持ち、情報交換を行っている。また、地区の連絡協議会に参加しており、特養、老健、病院、療養型、通所などの職員と情報交換や事例検討会を行い交流の場を持っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スーパーバイザーを導入しており、常に管理者や職員の相談に応じれる体制がある。また、月に1回の定例会議で、運営者と話し合える場を持っている。年に2回運営者との個人面接があり、直接悩みや希望、要望を話せる機会がある。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>「自己評価表」の提出、管理者から見た職員の「人事考課表」により、個々の職員の勤務状況を把握している。それに基づき個人の面接から問題や悩みを解消し、向上心を持って働ける職場づくりをしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回の相談時から、十分な状態把握に努めて面接などを行い、要望や不安などを聞き、安心していただけるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回の相談時からご家族との関わりを多く持ち、不安の解消や希望、要望をしっかりお聞きしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の相談時から、しっかりと状態把握に努めて面接などを行い、在宅での生活が継続できるか、グループホームへの入居が適しているかどうかを見極めて支援している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の状態に応じて、家族の協力を得ながら馴染まれるまでは連携を密にしている。慣れるまでの面会回数や外出、外泊を職員とご家族で相談し合い、スムーズに生活に馴染めるよう配慮している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	コミュニケーションを大切にし、昔の仕事の話や戦時中の話など懐かしい話をして共有している。また、家事を一緒に行い家族の一員として共に暮らしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事の際に、ご家族にも参加していただき、一緒の時間を過ごす事で交流を図っている。また、ご家族に不安事や相談事、話したいことがあればお聞きし、共に考え、喜び、悩みごとともに嬉しいことも共有し合える関係を築いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事以外でも、いつでも気軽に来ていただけるよう、働きかけを行っている。面会時は本人とご家族が気兼ねなくゆったりと過ごせるよう配慮している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔、馴染みの友人、親戚の方の面会がある。スーパーへの買い物、神社、お寺などへの参拝などを行い、馴染みの場所への外出も支援している。ご家族の協力を得て自宅への帰宅、家族との外出も行っている。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるように努めている	自分が主役になれる場面をつくったり、役割を持っていただくことで孤立しないようにしている。他の利用者様とも一緒にかかわりを持てるように、職員が間に入るなど配慮している。仲間同士で心配し合える関係を大切にしている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所時には、このホームから離れてもいつでも相談にのれることを話している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや、希望などを毎日の会話の中でよく聞き、希望に沿えるようにご家族とも相談しながらケアに取り組んでいる。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独自の「家族状況とグループホームに期待する事」、「バックグラウンド」、「生活の様子」のシートを利用し、個々の生活歴や状態像の把握に努め、本人が暮らしやすいよう努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の記録に1日の言動、身体状況などを、詳しく記録し状態を把握している。また、急に変化があった時は職員全体で話し合い、現状の把握と今後の対策を相談している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに基づいて、個別の介護計画を作成している。計画作成時は、『チームケアのための担当者会議』を開催し、意見を反映させた介護計画を立てている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回見直しを行っている。また、状態に変化があれば直ちに会議を開きご家族、医療機関の関係者などと話し合い、計画の見直しを行い新たな計画を作成している。計画は職員間で共有している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録に1日の言動、身体状況などを詳しく記入している。「行動計画実施記録」は計画に連動した内容で毎日のケアの実践、結果を記録し、毎月評価を行うことにより介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームと家族が気兼ねなく家庭的なお付き合いができるよう、家族会や面会時にお話をしている。また、家族の希望があれば、利用者様の居室へ宿泊していただけるよう布団なども用意している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の小学校との交流があり、行事に参加させていただいている。また、月に1回はボランティアで手話を学びながら楽しく過ごしたり、近隣の方にお茶や折り紙など教えていただいたりしている。消防訓練は地域の消防署のご協力をいただき、近隣の方と一緒に訓練を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の介護支援専門員の連絡協議会に2か月に1回参加し、他のケアマネジャーや他の事業所の担当者と常に連携を持っている。他のサービスが必要な時は利用できる体制がある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの担当者とは、2か月に1回の運営推進会議で情報交換を行っている。また、ホームだよりもおかせていただいております。その際お話をさせていただいている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人やご家族の希望により選んでいただいている。月に1回、かかりつけ医の訪問がある。また、事業所近くの総合病院と協定書を結んでおり、適切な医療を受け相談できるようにしている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医は認知症にも詳しく、利用者様の相談や診断、治療をしていただいている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム内に看護師を常勤で配置している。また、訪問看護の看護師とも連携が取れており、利用者様の急変時に迅速な対応ができる体制がある。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には頻回に面会に行き、不安を和らげるよう支援している。また、主治医、ご家族と相談しながら早期退院のための対応をしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、入居時に家族からの希望を聞いている。しかし、家族の気持ちに変化がある場合もあるので、機会を見ながら主治医、家族と繰り返し話し合っている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームにおいて「重度化した場合の対応に関わる指針」があり、その中でホームでできること、できないことを見極めている。主治医と連携し、できる限り利用者様やご家族の意向も尊重しながら支援に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入退居の際は、ご家族、かかりつけ医や関係する担当者間で様々な事項を想定し、十分な話し合いを行っている。入居時には馴染みの物を持ち込んでいただき、安心して生活できるように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	独自の「プライバシー保護の取り扱いマニュアル」を作成しており、個人情報について適切な取り扱いをしている。また、入居者様を人生の先輩として尊敬し、言葉かけに注意し、自尊心を傷つけないよう配慮している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が主体であり、利用者が自己決定できるような言葉かけに気をつけている。レクリエーション時は、一人ひとりが主役になって楽しめるよう働きかけている。個々が役割を持って生活し、自分の気持ちを表現できるよう支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心や職員のペースにならないようにしている。ゆったりと自由に暮らせるよう一人ひとりの生活リズムを把握し、利用者様に合わせている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	洋服選び、髪型など利用者様の希望に沿っている。力量に応じて助言したり、一緒に行っている。理美容訪問で美容師に来ていただいているが、本人の望む店があれば、ご家族の協力をいただき出かけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事作りを手伝っていただいている。材料を切る役割の方、盛り付けをされる方、色どりを考える方や食器拭きや片付けなど、本人のできること、したいことを一緒に行い、賑やかに食卓を囲んでいる。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物に行った際には、自分で選んだ好みのおやつを買っている。おやつを居室に置いている方は、期限や衛生面に注意しながら、本人の嗜好を尊重している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の状態に合わせて、定期的にトイレ誘導を行っている。また、水分摂取の配慮、散歩や適度な運動を行うことにより内臓の働きをよくなり、気持ちよい排泄につながるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日の体調や前日の睡眠時間に合わせて、入浴時間、温度などを調整している。 入浴日以外でも、希望があれば入っていただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	外出や散歩、日常生活上の手伝いをすることで日中の活動量を増やし、安眠につなげている。また、安心して眠れるように就寝前に言葉かけをしたり、本人の話を納得のいくまでお聴きするなど支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できる事や好みを見極め、役割を持った生活ができるように支援している。また、趣味を活かしたり、得意とする事をお願いするなど、生きがいを持った生活ができるように支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力量に応じて財布を持っていただいている方もいる。買い物際には職員がそばに寄り添い、さりげなくサポートしている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの「不動の滝」は散歩コースになっており、マイナスイオンを浴びながら心身のリフレッシュの場になっている。滝のそばでティータイムを楽しんだり、昼食を摂ることもある。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者のご要望をお聞きし、神社や寺の参拝、季節の花を見にドライブに行っている。また、ご家族の協力により、水族館へ出かけるなど外出支援を行っている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙などを用意し、お出ししたい方に出せるようサポートしている。また、ご家族や親類、友人など電話で話ができるよう支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人などの面会があり、居室やリビングでお茶を飲んで過ごされている。職員は訪問者が気兼ねをせず過ごせる雰囲気づくりに配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	独自の「身体拘束に関するマニュアル」を作成しており、定期的に開催している「身体拘束廃止委員会」で、職員が内容を理解し話し合っている。定期的な勉強会でも取り上げており、ケアにも反映されている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をすることにより、より不穏症状が増すことを職員全員が把握できている。不穏症状がある方は傍に寄り添い、安心できるよう対応している。現在、利用者様がホームの生活に慣れており、職員も個々の習慣を把握している。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守りしやすいよう間取りを工夫しており、常にごどこにおられるかを把握している。また、居室内を訪室する時は、必ずノックや言葉をかけてプライバシーに配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの力量に応じて管理している。お預かりして必要な時にお出しし、針仕事などをしていただく方もいる。ホームの刃物類は使用していないときは、目に付かない所へ保管している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	独自の「事故防止マニュアル」を作成している。転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災などに応じた取り決めがある。専門的な知識を習得した上で個々の状態に合わせて対応し、事故防止に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年間研修計画の中に入れて定期的に学習、実習している。事業所内での勉強会を行っており、新人職員、参加できなかった職員は管理者が個々に指導している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難、消防訓練を行っており、地域の方々にも協力をお願いしている。また、夜間の火災を想定した訓練も勉強会で行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>リスクは事前に家族にお話している。リスクを認識し、自由な生活空間を大切にしながら危険回避について、家族と話し合い対策を考えている。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎朝バイタルサインのチェックを行い記録し、身体的変化があれば、細かいことでも職員間で話し合っている。異常があれば医療機関に連絡し、指示を受けている。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>利用者様の服薬一覧表を作成し、職員が覚えやすい工夫をしている。処方箋で薬の効能、効果、注意事項が把握できている。症状に変化があれば医師に相談し指示を受けている。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>散歩や適度な運動を行っている。水分をしっかり摂るよう工夫している。献立には、根菜や繊維の多い食材、乳製品を必ず取り入れて、スムーズに排便ができるように便秘予防対策をしている。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後に、口腔ケアを支援している。磨き残しがある方は一部介助している。</p>	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士が献立を作成している。毎食の食事摂取量を介護日誌に記録している。水分を取りたがらない人は、お茶や水以外の好みの物を飲んでいただく工夫をして水分確保をしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRS A、ノロウイルス等)	独自の「感染マニュアル」を作成している。定期的勉強会で知識を習得し、感染予防に努めている。インフルエンザの予防接種は、毎年職員、利用者様全員が接種している。外からホームへ入る際は、手洗い、うがい、手指消毒を励行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	「食事管理マニュアル」の「キッチン衛生管理」「食中毒防止対策」に沿って正しい知識を知り、食中毒防止に努めている。食器、まな板、ふきんなど定期的に消毒を行っている。食材は前日に市場から届き、冷蔵、冷凍庫に保存し、調理の際に十分に火を通してしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	近所の方が訪ねて来やすいよう、玄関扉をオープンにしたり、夏期には網戸にしている。玄関周辺には花を育て、利用者様が手入れをし、近所の方が声をかけやすい雰囲気づくりをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンやブラインドで、日差しが柔らかくなる配慮をしている。夏期はすだれをかけて強い日差しを避け、季節感を出せる工夫をしている。季節の花を一緒に生けて、居心地がよく過ごせる工夫をしている。テレビの音量も個々に応じて調整している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、配置も工夫している。独りになれたり、気の合う方と過ごせる場所を確保している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

コミュニケーション、ふれあいを大切にし入居者様が、いつも笑顔でいられるよう心がけている。また、自然に囲まれた環境を生かして屋外へ出かける時間が増えるよう常に考え、花や木々の緑を見て心が癒され、そして、散歩をすることで身体を適度に動かし、筋力が保ていつまでもお元気に暮らしていただけるよう支援している。理念に掲げている『やさしい』を念頭に、常に笑顔が絶えないホームであるよう取り組んでいる。